

●三位一体後第六主日

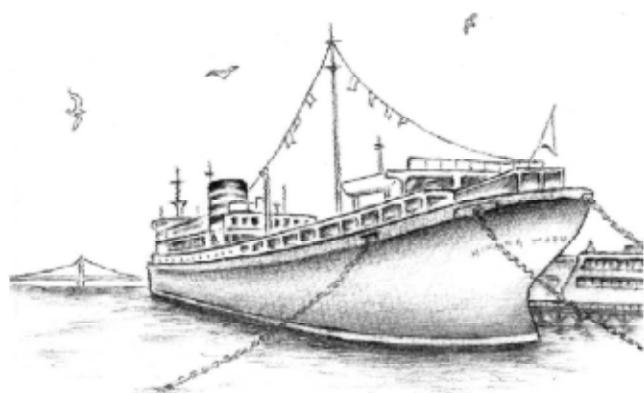
泉のほとり

今日の詩篇「第一二編」

主よ、あなたはその仰せを守り

この代からとこしえに至るまで

わたしたちを見守ってくださいます。



同じようにごしなさい

主イエスがなさった、善いサマリア人の譬えは、よく知られています。でもその最後の言葉が「行って、あなたも同じようにしなさい」であることを、きちんと受け止めているでしょうか。もしわたしたちが、こういう主イエスの言葉を聞き流しているとしたら、今日、改めてこの話を聞く意味はありません。

出来事はひとりの律法の専門家の質問から始まります。何をしたら永遠の命を受け継ぎますか、という問いに、律法には何と書いてあるか、と問い返されて、神と隣人を愛することです、と答えられます。正しい答えだ、それを実行しなさい、と言われて、わかりましたと答えて帰れば、何の問題もなかったのですが、この人はさらに、隣人とは誰のことかと尋ねたのです。

隣人とは隣の人です。でも隣の人にもいろいろいます。嫌いな人、気の合わない人、敵もいます。だから、愛すべき隣人とは誰かとはい、現実的な問なのです。それに対して、主が譬えで答えられました。

エルサレムからエリコへの道は、よく強盗が出ました。だから旅人は必ず複数で旅をしたそうです。でも主の譬えに出てくる人は、ひとり旅でした。それで強盗に遭って、半殺しにされたのです。エルサレムの神殿での仕事を終えて自宅に帰る途中の祭司が彼を見つけたが知らぬ顔で通り過ぎ、レビ人も同じように通り過ぎました。

でもそこを通りかかったサマリア人は、彼を見て憐れに思い、応急手当をして、口々に載せ、宿へ運んで介抱します。さらにお金を出して宿の主人に介抱を依頼しました。歴史的に、サマリア人ユダヤ人は敵同士でした。敵であるユダヤ人を、この人はこれ以上ないほど丁寧に世話をしたので、そして主は、行って、あなたも同じようにしなさい、と言われました。

この譬えを聞くと、自分は祭司かレビ人か、それともサマリア人かと考えます。でもその前に、自分はどの旅人だと考えることが必要なのではないでしょうか。

自分の力では永遠の命が得られないわたしたちに、それを与えるために来られた主に向かって「何をすれば・・・」と問うのは全く的外れです。自分が何かをする前に、神さまが考えていてくださるのです。わたしたちは感謝して受けるだけなのです。

子どものころ、よく「自分一人で大きくなったような顔をするな」と言われました。親の世話を受けて成長したのに、それを忘れるからです。現実を言えば、わたしたちは、苦勞しながら共に生きてくれている多くのサマリア人に支えられて、生きています。そして最大のサマリア人は、主イエスです。だからあなたも、隣人に対して、サマリア人のひとりになりなさいと主は言われるのです。

祈り

○あなたの光を慕って、ここに集まって参りました。み光を全身に浴びて、自分のような者でも新しく変えられることを主が教え諭してくださいように、白らも光の子として生き得ることをはつきりと知りたく願って、ここに集まって参りました。御言葉の光を、御霊の注ぎを、御霊によって心が照らされる経験を、ここで重ねることができましますように、どうぞわたし共の願いを聞いてください。あなたがそのように光を与えてくださらなければ、わたし共の歩みはたちまち闇の歩みになるからであります。死の彼方に何を見ることもできなくなり、自分の愛に確信を持つことができなくなり、不安と恐れがわたし共の心を閉ざしてしまふからであります。わたし共の純い心が、あなたが創ってくださいましたこの世界の穢かさに生きることを妨げてしまふからであります。いや、何よりもわたし共自身の罪がそこにわたがかまつていることを思い起こします。人の罪をあげつらつて、自らの適ちに気づかなかつたことを、あなたのなさることにつぶやき、不信を抱きながら、御言葉を聞き、祈りに打ち込む生活を作らなかつたことを。赦えればきりがないうわたし共の罪の歩みでありました。今、食卓を備えて

くださる御神、ぬかずいて真の悔い改めをすることができましますように、へりくだる喜びを、そこで主を仰ぎ見る豊かさを味わうことができますように。わたし共の国のために祈ります。真実に国を愛したいと願うものです。この国を顧みてください。政治に責任を持つている者から始まり、誰からも見捨てられていような生き方をしている者に至りますまで、御心ならば、あなたが顧みのうちに置かれましますように。この国に立てられていいる教会として、キリスト者としての責任をもう一度はつきりとわきまえることができましますように。十字架と廻りに全存在をかける教会の歩みをもう一度整えてください。疲れている者がたくさんいます。わたし共の祈りも、言葉も届かないもどかしさの中にながら、心に覚えている悩みがあります。それらの人のために祈りを新しくすることができましますように。痛みを持つ者の傍らに立つ良きサマリヤ人の歩みを、わたし共の歩みとしてください。今、広がる祈りをもって礼拝を始めたいです。すべてが御心に通うものとなり、それ故に、わたし共の一人ひとりにとつてかけがえない平安の時となりますように。主イエス・キリストの御名によって、感謝し、祈り願います。アーメン

(加藤常昭「み前にそそぐ祈り」より)

今日のお知らせ

○第一礼拝後、教会学校と並行してロビーでのコーヒーサービスと、圖書二階のリズム室では、「ぶどうの会」が開かれます。

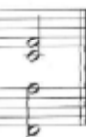
○今日の第二礼拝を、キリスト教放送のFEB Cが録音し、後日放送します。

○第二礼拝後、ホールで、讃美と報告の後、F B Cの活動についての話を伺います。お昼はお弁当です。

○今週二五日(火)午後二時から、日本キリスト合同教会の委員会が、品川教会で行われます。委員はご参加ください。

○来週から、八月二七日まで、日曜日の礼拝が、一〇時からの一回だけになります。特に第二礼拝に出でおられる方は、時間が早くなりますので、ご注意ください。

○来週の礼拝で洗礼式と転入会式を行います。また礼拝後一二時二〇分からは、教会研修会を開きます。教会の奉仕体制を見直そうという課題と、共に取り組みます。大事な研修会です。今日、資料を伏差しに配布しました。事前に読んで参加してください。



第一礼拝 (午前9時30分)

讃美歌 讃21 205番

讃21 393番

説教 「必要なことはただ一つ」

聖書 ルカ10章38～42節 (新約P127)

司式 山名隆史兄 聖餐司式 吉村和雄 牧師

説教者 黄允浚 副牧師

前奏曲「協奏曲」J.G.ワグネル

○ 讃美歌 21 205番

1. 今日が光が 造られた日よ
闇の中にも 「光かがやけ」
2. 今日が聖なる 安息の日よ
疲れた心 新たにされる
3. 今日が平和が 満ちあふれる日
あらい騒ぐ 波もしずまる
4. 今日がみ神に 共に祈る日
心を高く み前に上げよう
5. 今日が主イエスの よみがえりの日
われらを生かす 愛をたたえよ

○ サクソフォンによる讃美

「主の導きを求めて」

○ 讃美歌 21 393番 (3面に楽譜があります)

1. ところを一つに 平和を求め
主を愛する愛 明るく燃やそう
主はぶどうの幹、われらその枝
主はわれらのもの、われら主のもの
2. 恵みの子たちよ、交わり深め
愛とまこととを 互いに誓おう
われらのきずなが 弱まる時も
強めてください、主の愛により
3. 主はわれらのため 苦しみを受け
その友のために 命を捨てた
われらも互いに まことの愛を
兄弟姉妹と 共に分け合おう
4. 分かれた民が 一つにされる
その日が来るのを われらは望もう
主の光を受け その輝きを
世界に示そう、主の弟子として

第二礼拝 (午前11時10分)

讃美歌 3番 276番

詩編 第12篇 (旧約P843)

説教 「主イエスのみを誇りとして」

聖書 IIコリント10章12～18節

司式 山名隆史兄 (新約P336)

説教者 聖餐司式 吉村和雄 牧師

前奏曲「神のなし給うことは全てよきこと」J.S.バッハ

○ 讃美歌 3番

○ サクソフォンによる讃美

「主の導きを求めて」

○ 聖歌隊による讃美

「バビロンの流れに」ジョージ・グ・バリストリー

流れ行くバビロンのほとりに

我ら坐し 涙ながして泣けり

はるか思いをシオンにはせ

琴を柳にかけ

我ら涙ながし泣けり

○ 讃美歌 276番

聖餐曲「フーガ」L.N.クラウボー

後奏曲「全能の神の偉大さよ」F.メンデルスゾーン

聖餐曲「アダージョ」F.メンデルスゾーン

後奏曲「全能の神の偉大さよ」F.メンデルスゾーン

※礼拝には、聖書、讃美歌、礼拝のしおりを毎週お持ちください。